

Chapter 3 海外出身の人々に成果の発信を

【3-1】 発表で伝わる英語とは

研究成果を国内・海外問わずに伝えるためには、日本語以外の言語の活用が必要です。
 普段から学習している英語を活用することで、世界中の多くの人々に研究成果を伝えることができます。
 しかし、成果が伝わるために、英語による伝え方を工夫することも大切です。

1 英語で伝えるためには、まずは「発音&アクセント」！

手元に書いた英文を棒読みしたところで、海外の人々には伝わりません。
 発音とアクセントを意識して、メリハリをつけて発音しましょう。

まずは「研究テーマ」英訳すると … 正しく発音できますか？

「 Research theme 」 (rɪ'sɜ:tʃ θi:m)

ヒント:sɜ:r (サー)を強く発音するのは 誤りです。

[発音チャレンジ1] 次の単語について、アクセントを調べて正しく発音しましょう。

- (1) Super Science Highschool (スーパーサイエンスハイスクール) (2) technology (技術)
 (3) inquiry activity (探究活動) (4) overseas training (海外研修) (5) academic society (学会)

2 続いて、円滑に伝えるためには「強調したいところを際立たせて」発音する。

例. リサーチクエストンについて順番に発表をすることになりました。
 自分たちの班の出番です。次のうち、強調したいところはどこですか？
 アクセントにも注意して発音しましょう。(強調部分は強めてややゆっくりと発音します)

「Our research question is about **fonts.**」 *f* *moderato*

[発音チャレンジ2] 次の(1)～(4)は、研究発表に関する説明の例です。

- アクセント(ˈ)を意識して、発音してください。
 - さらに、強調したいところ(ハイライトの部分)を強調して発音してください。
- (1) 私たちは、文字のフォントによる効果を調査することにしました。

We examined how different fonts affect impressions of text.

(2) そこで私たちは1つの仮説を考えました。ゴシック体は明朝体よりも、人気があるというものです。

So, we developed a hypothesis: Gothic fonts are more popular than Mincho fonts.

(3) しかし、実験1の結果から、ゴシック体と明朝体の間に有意差はみられませんでした。

However, Experiment 1 showed no significant difference between Gothic and Mincho fonts.

(4) 実験2は、印象の原因は、文字の大きさであることを示唆しています。

Experiment 2 suggested that the size of the text is a major factor.

3 口頭で伝えるときと、文章で示すときで、適する表現は異なる。

例. 次の文章を聞いたときに、どちらが意味を理解しやすいでしょうか。

A1 It was exciting for us to discover the mechanical about the paper airplane in experiment 1.

B1 In Experiment 1, we discovered the mechanical of the airplane. It was excited.

A2

It was suggested that the word "athletes" was come to be used more frequently over time in our research.

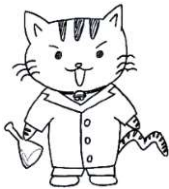


「It was (それ?)」「the word (そのワード?)」
「frequently…」最後に「our research?」 ええと…(頭で処理)



B2

Our research suggested about the word "athletes". Over time, 'athletes' was become too used more frequently.



「Our research」「the word "athletes"」
「Over time, 'athlete' was come to be used」
なるほどね。



※ペアになって、試してみてもよいでしょう。

口頭説明は、聴き手の立場を想定しましょう。

聴き手は、読書のように「記載された言語を全体的に見渡せる」わけではなく、

「話の始めから終わりまで『順番に』、単語(情報)頭に入ってくる」ことを念頭におきましょう。

※不定詞「It was ○○ for us to ～～」や

関係代名詞の「It that 構文」や、長い主語「The ○○ that was used by many people was ～～」などは、理解に苦勞をします。(頭の中で情報処理が必要になるためです)

※例えば、次の日本語を比べれば、一目瞭然です。

×「とても大変だった、部屋のほこりを片付けるのは、箒よりも掃除機を使った方が早かった、昨日ね」

○「昨日、掃除機で部屋のほこりを片付けると早くできた。箒のときはとても大変だったけどね」

→○Yesterday, I cleaned up dust in my room by using the vacuum cleaner. It was quick.

When using the broom, it was very tough.

4 原稿を読み上げるのはNG! なぜそうになってしまうのか。

× 次のような作業を行うと、「原稿を読み上げる癖」ができてしまいます。

Results

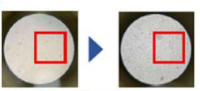
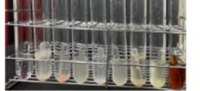



Table 1: Include Yeast analysis

Materials	Yeast growth(number)			Bubble generation(mL)			Yeasts analysis (The major species)
	be/none	0day	3day	be/none	0day	3day	
tea	be	13	224	be	0	0.13	<i>Saccharomyces cerevisiae</i>
rice	be	1	312	be	0	0.55	<i>Saccharomyces cerevisiae</i>
banana	be	6	354	be	0	0.62	<i>Saccharomyces cerevisiae</i>
yuzu	be	10	232	be	0	0.32	<i>Saccharomyces cerevisiae</i>
raisin	be	4	1112	be	0	0.28	<i>Saccharomyces cerevisiae</i>
tomato	be	24	868	be	0	0.83	<i>Hanseniaspora uvarum</i>
lemon	be	3	3424	be	0	0.32	<i>Cyberlindnera fabianii</i>

Here are the results. In Photo 1, the number of yeast cells increased in all materials. In Photo 2, the formation of bubbles was observed in each test tube. The volumes are as shown here. The right side of Table 1 pertains to the analysis of yeast, and three species were found. They are named *Saccharomyces*, *Hanseniaspora*, and *Cyberlindnera*, and were found in these materials.

スライドを投影し、
スクリプトを読み上げてしまう。

完成度の高い
スライドを仕上げる

説明のスクリプトを作り、翻訳ソフトで
英語に変換、そのまま採用してしまう。

○伝えたい事を明確にし(母国語可)、関連する英語を考えて(調べて)、最終的にスライドとスクリプトを仕上げる。

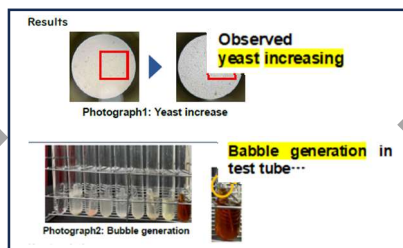
スライド

**Observed
yeast growth.**

**Bubble generation in
test tube...**

最初の実験で酵母が増加した。もう一つの実験で気泡が発生した。

要点を抽出し、英訳する
(スライドに入れる)



説明の順を意識して、
スライドを配置していく

Here is the results. Looking at photograph1, the number of yeasts increased, it was caused by all materials. And at photograph2, bubbles generation are observed in each test tube.

自作の英文をベースに、わからない表現は訳を調べながら説明を仕上げていく。

5 表現の使い分け(固めの表現と口語的な表現の使い分けをできるとよいでしょう)

【固め】These samples kept the same strength. However, the only condition I, the strength was changed. Furthermore, the color was changed similarly.

【口語的】These samples kept the same strength. **But** the only condition I, the strength was changed, **and** the color **also** was changed.

重要な展開として伝えたい場面であれば上の表現、テンポよく伝えていきたいところであれば下の表現、適宜使い分けをしましょう。

6 翻訳ソフト は「鵜呑みにしない」→学習で培った自身の「リテラシー(読み書き能力)」を駆使して、適切な表現に。

